

京丹後市民の人権に関する意識調査結果

■全体■

京丹後市では、「人権教育・啓発推進計画（平成20年度策定）」に基づき、人権が尊重される社会の実現に向けて取り組んでいます。今年度、この計画を見直し、第2次計画を策定することとしており、計画策定の参考とするため、平成29年9月に『京丹後市民の人権に関する意識調査』を行いました。その調査結果の概要について報告します。

【調査方法】

調査地域： 京丹後市全域
 調査対象： 京丹後市に在住する20歳以上の男女
 対象者数： 3,200人
 抽出方法： 無作為抽出
 調査期間： 平成29年9月15日～10月2日
 調査方法： 郵送回収及びオンライン回答、無記名方式

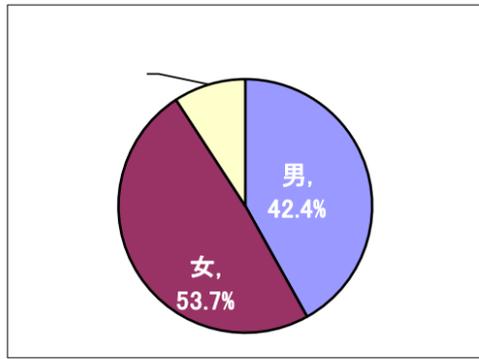
【回収状況】

調査票発送数： 3,200人
 調査票回収数： 1,017人
 回収率： 31.8%

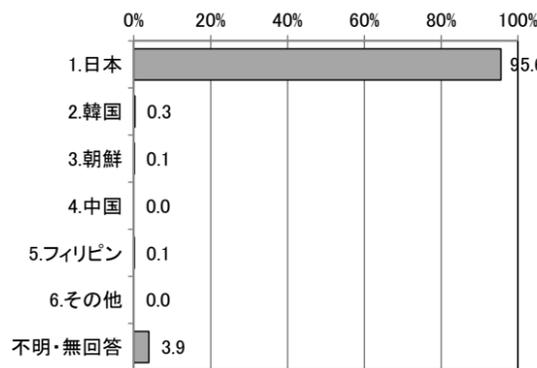
回収した回答者数は、女性のほうが男性よりも高く、また年齢が高くなるほど回答者数が多くなっています。国籍は、95%以上が日本でした。

【回答数の属性】

男女別

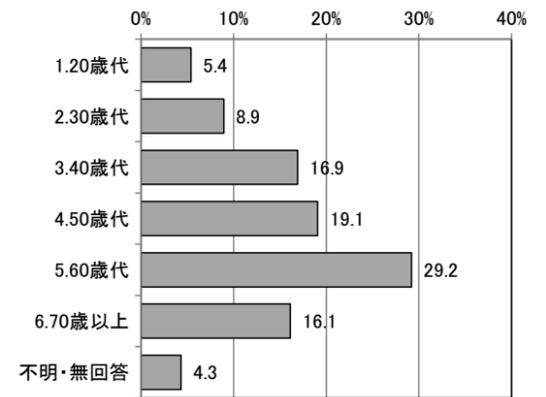


国籍



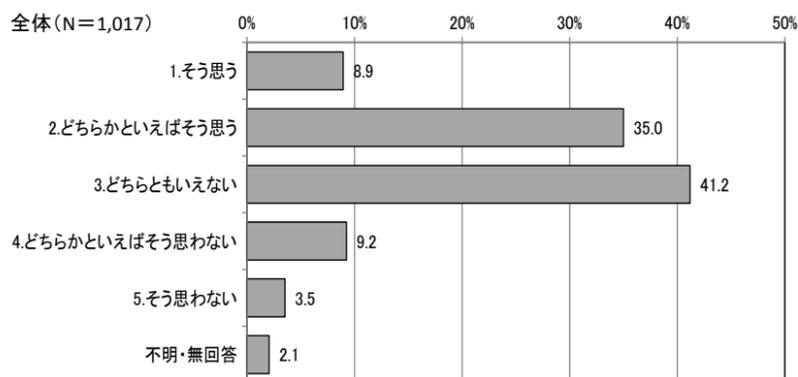
年齢別

全体(N=1,017)

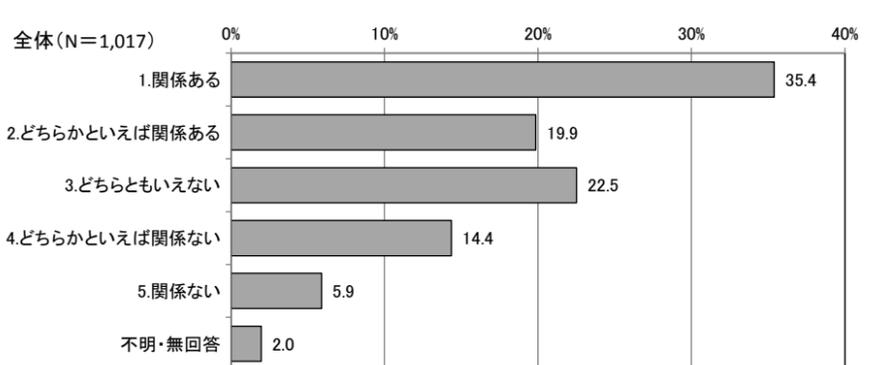


人権に対する意識と啓発、人権侵害について

●京丹後市では、人権が尊重されていると思いますか。



●人権問題は自分に関係があると思いますか。

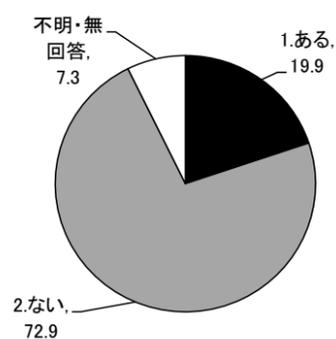


全体では「どちらともいえない」が41.2%で最も高くなっています。「そう思う」方の率は、性別では男性が女性を上回り、年齢別では60歳代が最も高くなっています。

「関係ある」「どちらかといえば関係ある」の合計で55.3%となっています。年齢別では20歳代が一番高く、年齢が高くなるにつれて低くなる傾向があります。また職業別では「関係ある」は、件数は少ないものの「学生」が最も高くなっています。また、職に就いている方においては、「公務員・教員」が最も高くなっています。

●今までに自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。

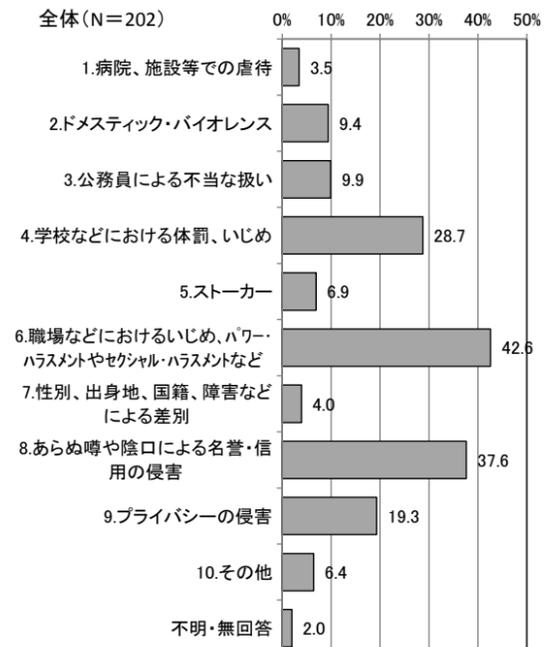
全体(N=1,017)



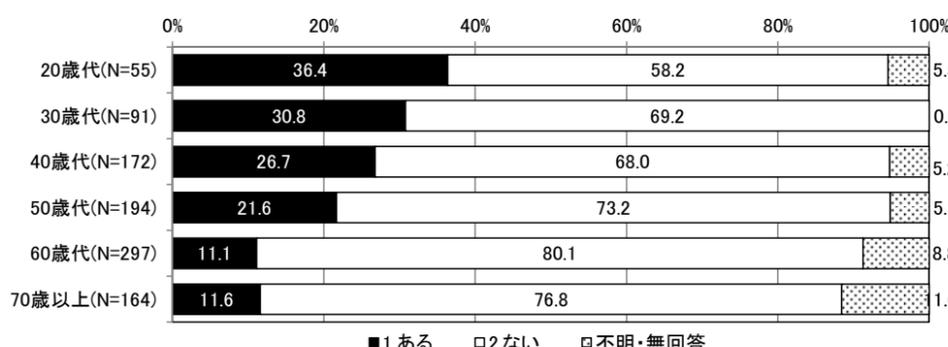
「人権を侵害された」と感じている方は20%弱でほとんどの方は人権侵害を感じていません。「人権侵害の内容」では、「職場などにおけるいじめ、パワーハラスメントやセクシャル・ハラスメントなど」「あらぬ噂や陰口」「体罰、いじめ」の割合が高くなっています。また年齢が低いほど、「人権を侵害された」と感じた方の割合は高くなっています。

(人権侵害の内容)

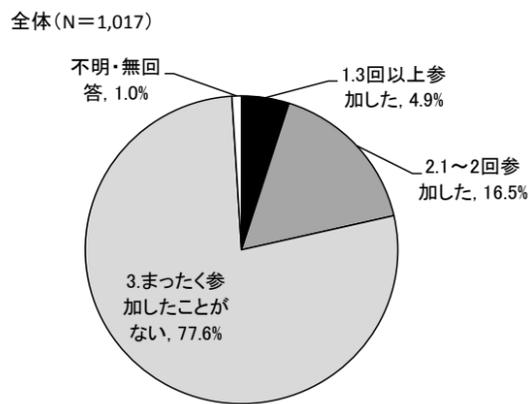
全体(N=202)



■ ある
 □ ない
 ▨ 不明・無回答

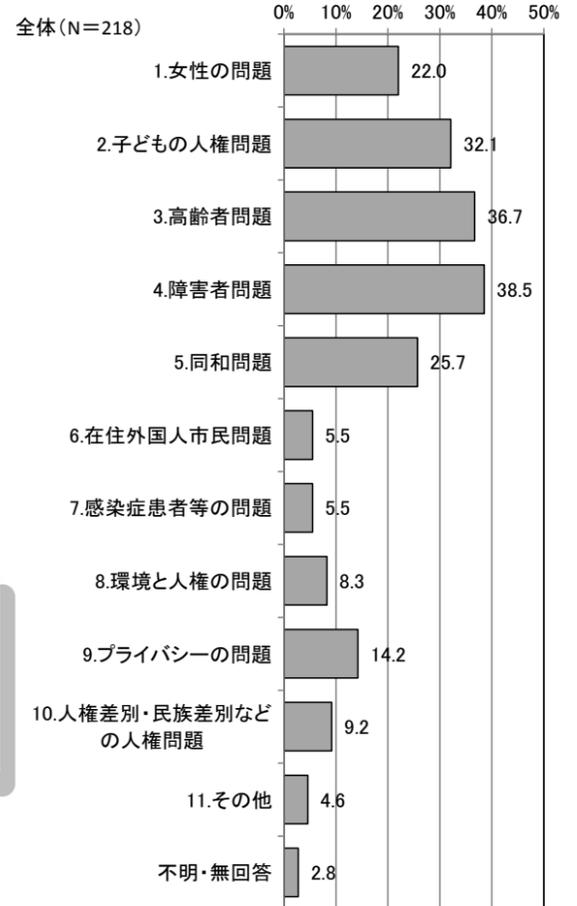


●最近3～4年間に人権に関する研修会や後援会に参加したことがありますか。

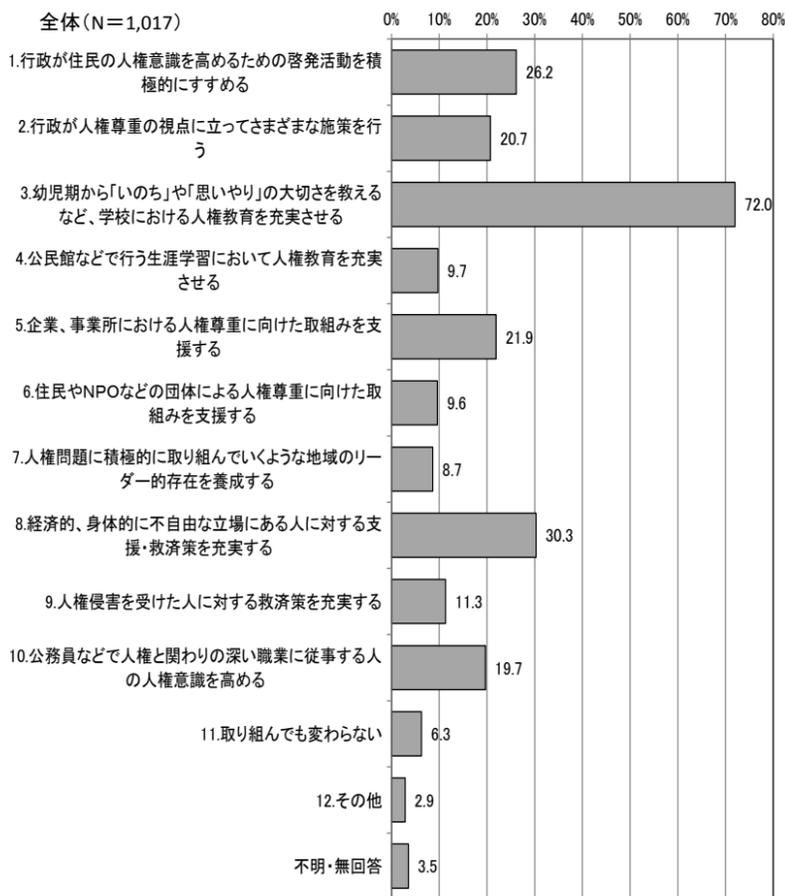


人権研修会等へ「参加経験がある」割合が最も高いのは40歳代となっており、また職業別では「公務員・教員」が他の職業と比較して群を抜いて高くなっています。
 参加した研修会、講演会のテーマは、「障害者問題」「高齢者問題」「子どもの人権問題」が多くなっています。
 人権についての理解を深めるために必要な京丹後市での取組みとしては、『学校における人権教育』が最も高くなっています。

●これまでにどのようなテーマの研修会や講演会に参加されましたか。(複数回答)

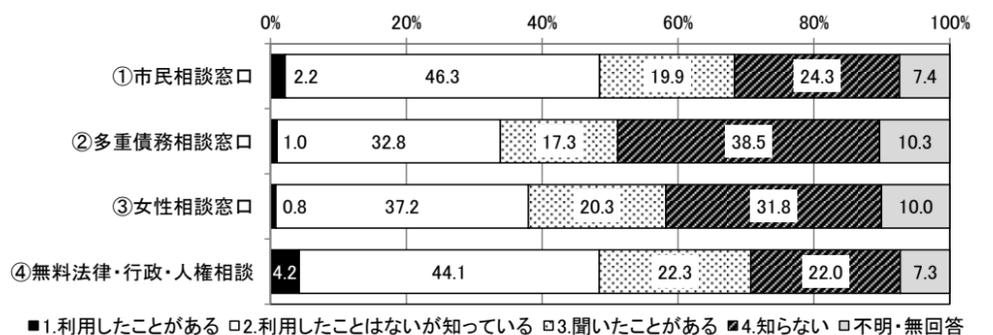


●人権についての理解を深めるために、今後京丹後市はどのような取り組みを進める必要があると思いますか。(複数回答)

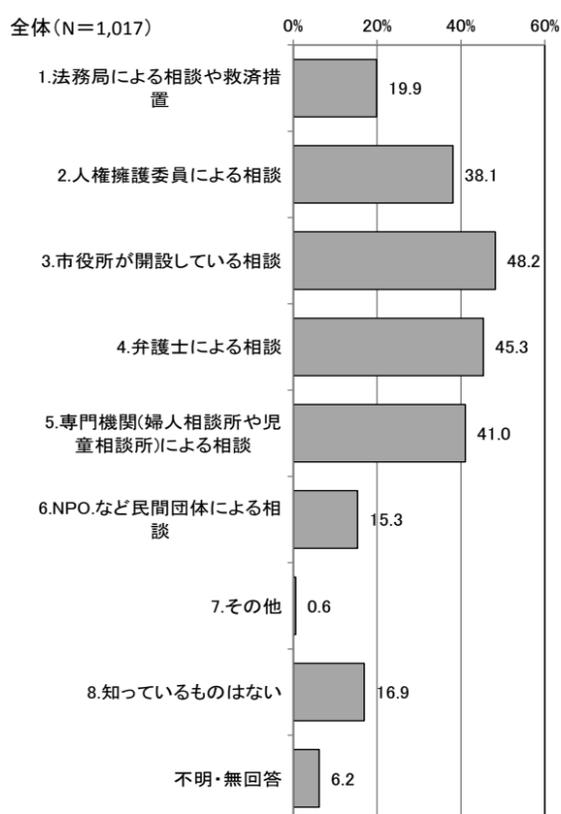


市の開設する相談窓口は概ね50%以上の方が知っていると考えていますが、実際利用された方は少ない結果となっています。

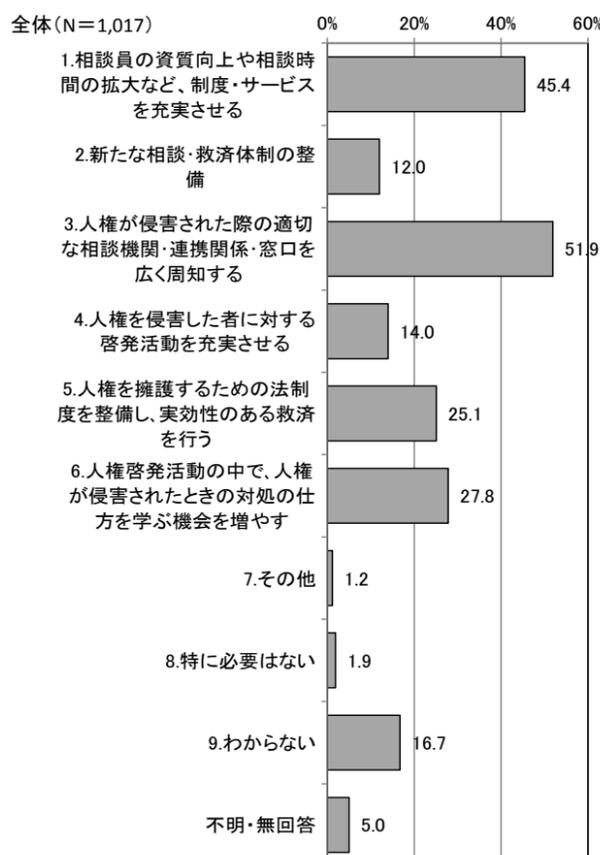
●京丹後市では人権に関する各種相談窓口を開設していますが、あてはまるものを選んで下さい。



●人権を守るための制度についてあなたの知っているものを選んで下さい。



●人権侵害に対する相談や救済について、特に必要なことはどのような事だと思いますか。(複数回答)



人権侵害に対する相談や救済について特に必要なこととしては、「相談機関・連携関係・窓口を広く周知する」が最も高くなっており、次いで「相談員の資質向上や相談時間の拡大など、制度・サービスを充実させる」が高くなっています。
 既存の相談窓口や制度を周知するとともに、利用しなくても利用できない方への配慮、工夫も必要となります。

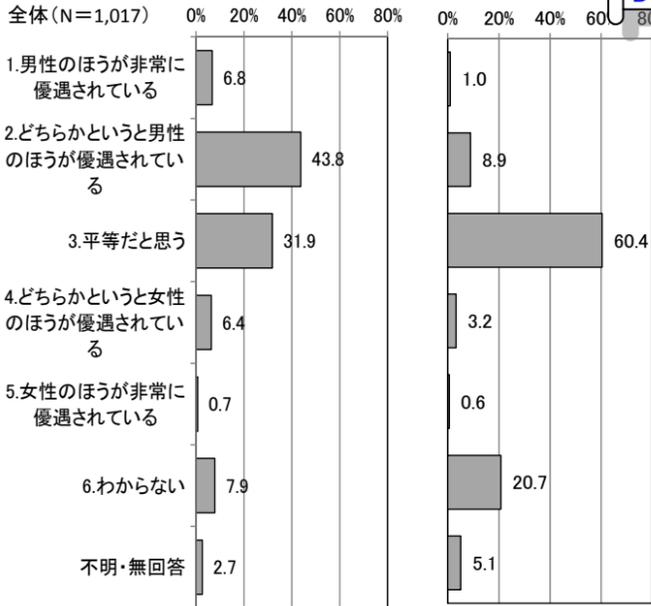
※複数回答の設問については合計%が100を超えます。

京丹後市民の人権に関する意識調査結果

■分野ごと■

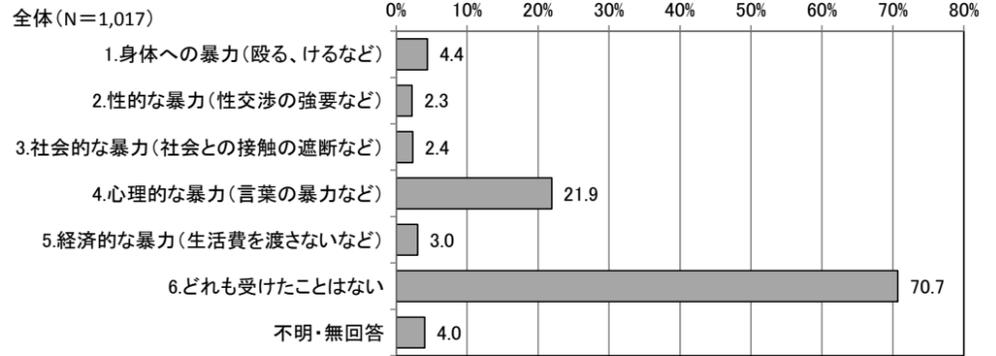
男性と女性に関する問題について

●次の分野で、男女の地位や待遇は平等になっていると思いますか。



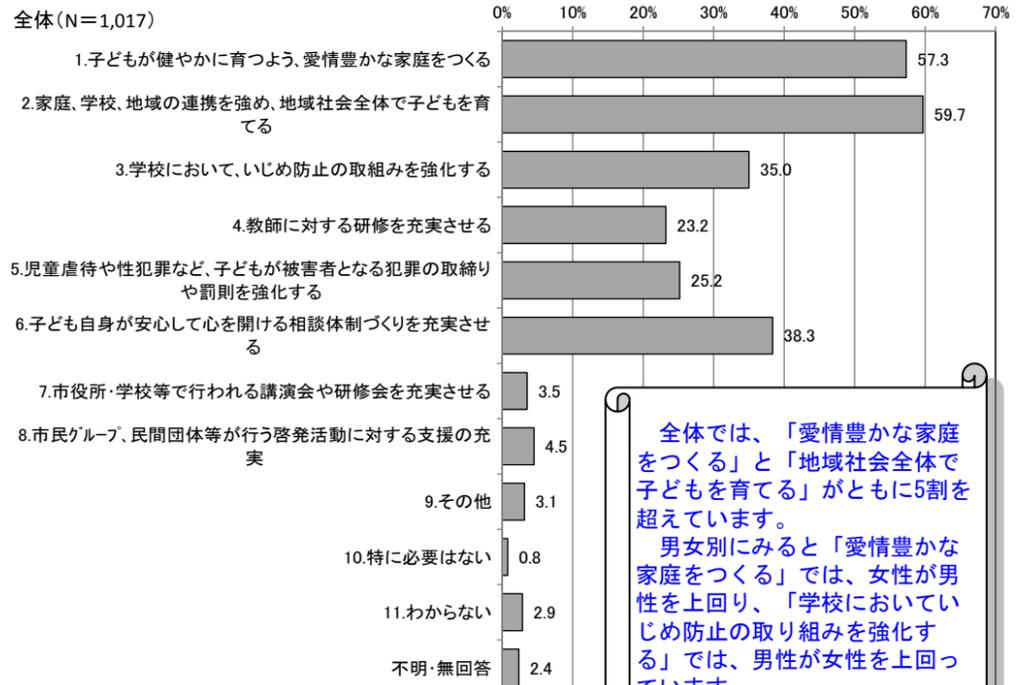
男女の平等については、学校においては男女平等と感じている方が多いが、家庭生活、職場、社会全体においては男性が優遇されていると感じている方が多くなっています。また、DV被害では「心理的な暴力」に約2割の方が回答しています。

●あなたは配偶者や恋人からの暴力(DV)を受けたことがありますか。(複数回答)



子どもに関する問題について

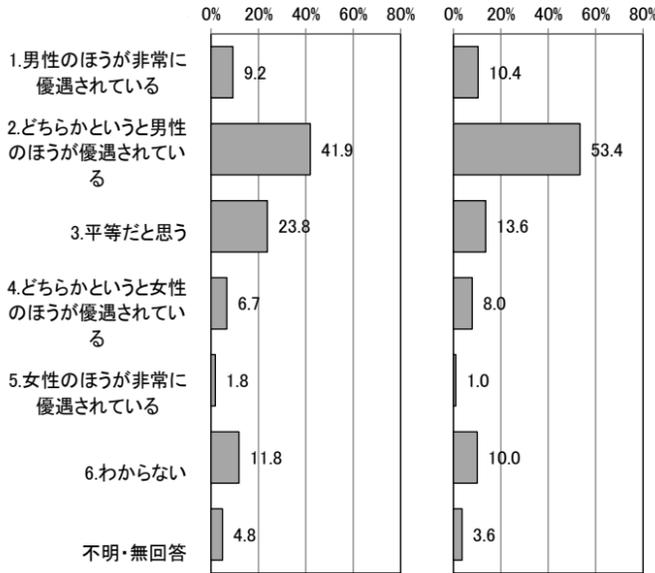
●子どもの人権が守られるために、今後特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(複数回答)



全体では、「愛情豊かな家庭をつくる」と「地域社会全体で子どもを育てる」がともに5割を超えています。男女別にみると「愛情豊かな家庭をつくる」では、女性が男性を上回り、「学校においていじめ防止の取組みを強化する」では、男性が女性を上回っています。

【家庭生活】

【学校】

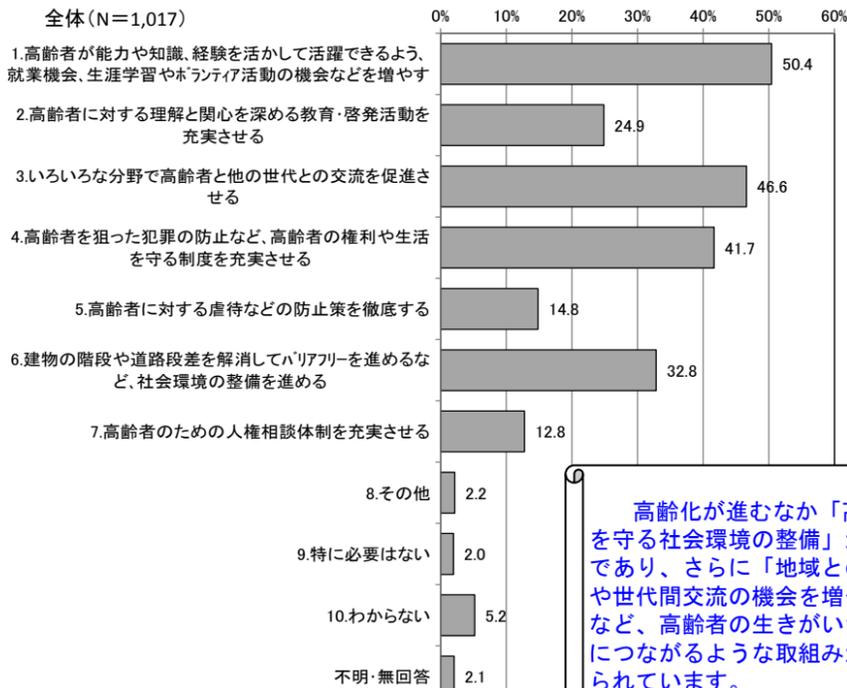


【職場】

【社会全体】

高齢者に関する問題について

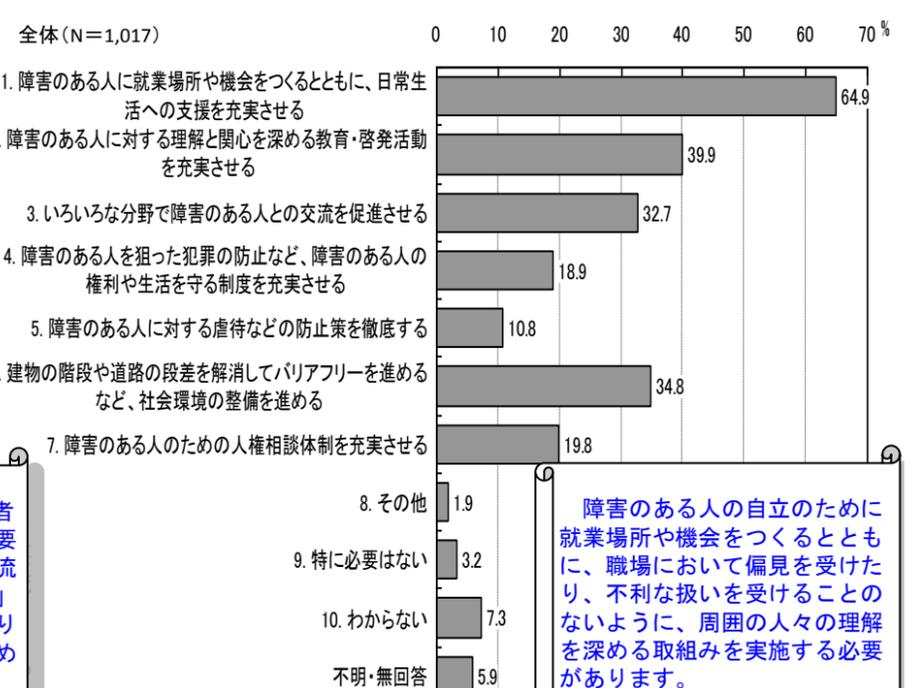
●高齢者の人権が守られるために、今後特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(複数回答)



高齢化が進むなか「高齢者を守る社会環境の整備」が必要であり、さらに「地域との交流や世代間交流の機会を増やす」など、高齢者の生きがいづくりにつながるような取組みが求められています。

障害のある人に関する問題について

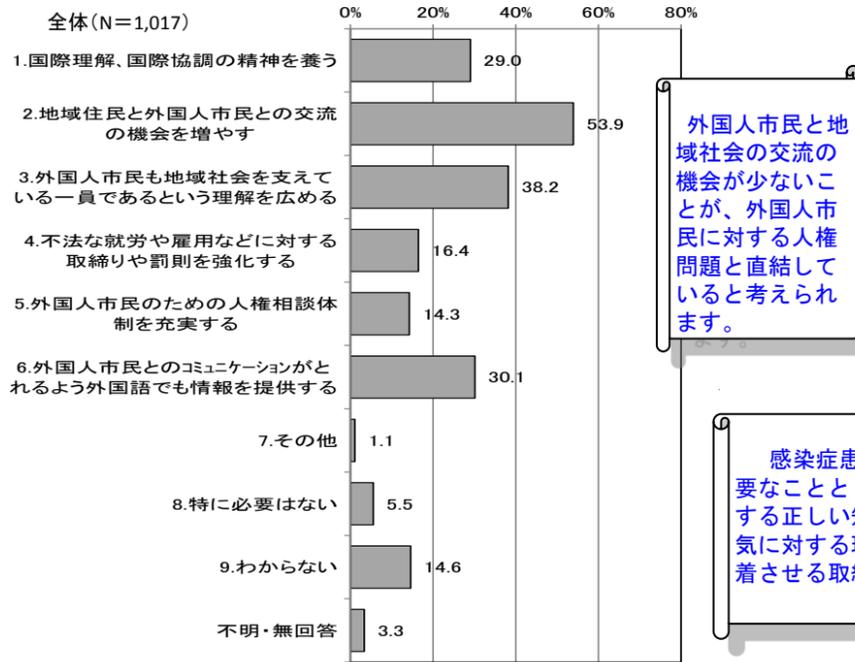
●障害のある人の人権が守られるために、今後特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(複数回答)



障害のある人の自立のために就業場所や機会をつくとともに、職場において偏見を受けたり、不利な扱いを受けることのないように、周囲の人々の理解を深める取組みを実施する必要があります。

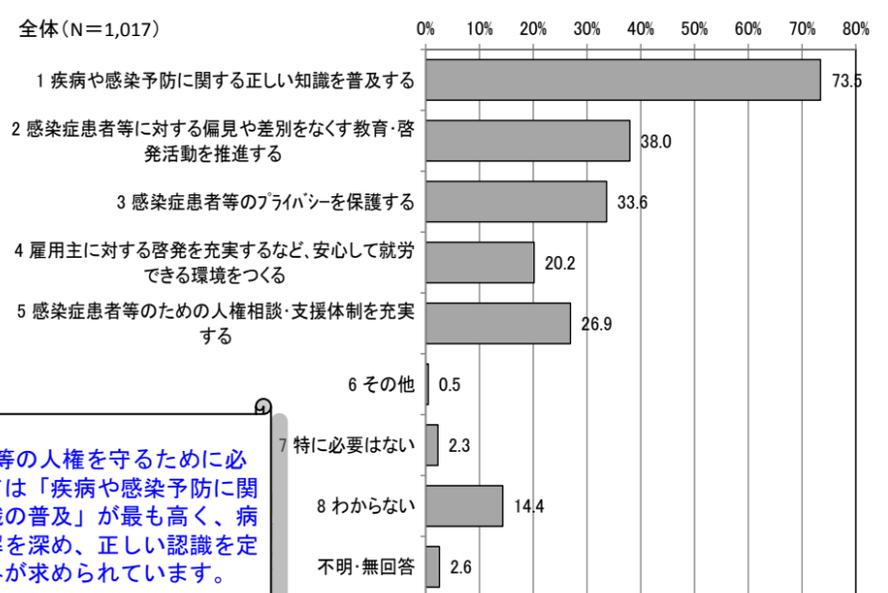
外国人に関する問題について

●外国人の人権が守られるために、今後特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(複数回答)



感染症患者に関する問題について

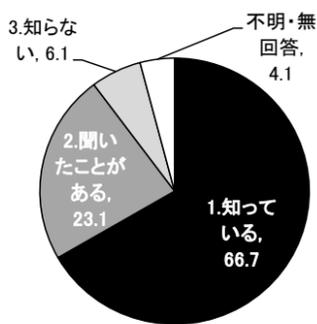
●感染症患者の人権が守られるために、今後特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(複数回答)



同和問題について

●日本の社会の中で、「同和問題」「部落問題」などといわれる問題があることを知っていますか。

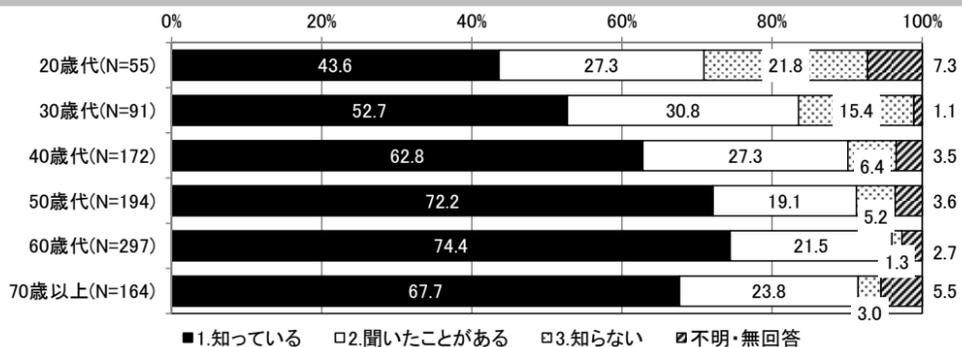
全体(N=1,017)



「同和問題」についての認知度は66.7%と高くなっていますが、年代が若いほど、同和問題に対する意識が希薄化しています。同和問題を学校の授業で知った方の割合が高いことから、学校で正しい知識を学ぶ必要があると考えられます。

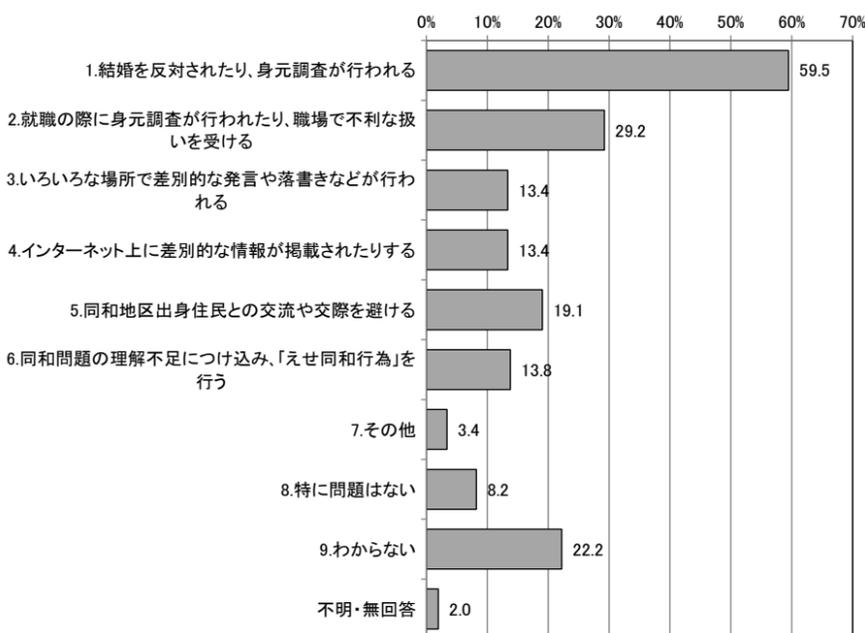
同和問題について現在特に問題となっていることとして、未だに、結婚問題が同和問題解決の大きな障壁となっていることが伺えます。

また、問題解決のためには「正しく理解されるための教育・啓発活動を推進する」が5割を超えています。その一方で、「口に出さないで、そっとしておく、子どもにも教えない」といういわゆる「寝た子を起すな論」にも2割の回答が見られます。



●同和問題について、現在特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

全体(N=913)



●同和問題を解決するために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(複数回答)

全体(N=913)

